

2023年7月21日
東日本旅客鉄道株式会社
盛岡支社
株式会社ヘラルボニー

ヘラルボニーのアート作品を彩ったラッピング列車を運行します！

JR 東日本盛岡支社と株式会社ヘラルボニー（以下、ヘラルボニー）は、鉄道車両を活かした新しい文化の創造と鉄道をご利用のお客さまや沿線にお住まいの方にも鉄道の旅の魅力を発信することを目的として、2023年秋頃より岩手県内でラッピング列車を運行します。デザインとして採用するアートは岩手県出身の作家が描いた作品の中から、「岩手らしさ」、「東北の豊かな自然」をイメージできる作品となる予定です。

この機会にぜひ岩手発のアートに触れながら、鉄道の旅の新たな彩りをお楽しみください。

1. 企画趣旨～お客さまの旅を彩り、岩手を、東北を元気にしたい～

「異彩を、放て。」をミッションに福祉領域の拡大を目指すヘラルボニーの世界観を、岩手県にお住まいの方および岩手県に観光で訪れる方に知っていただくために、当社の車両を用いて「アートと鉄道」という岩手の新たな文化創造への挑戦というヘラルボニーの取り組みに貢献することを目的に、この企画を実施します。

ラッピング列車を通じて、多様なお客さまに列車の旅をお楽しみいただきながらアートを通じて旅に彩りを添えるとともに、この列車をご覧になる方の暮らしを豊かにし、沿線の地域活性化に貢献します。

2. ラッピング列車の概要

(1) ラッピング施工車両

キハ110系 2両

(2) ラッピング期間

2023年秋ごろから約2年間の運行を予定（詳細は決まり次第お知らせします。）

(3) 走行線区

主に釜石線（花巻駅～釜石駅間）、東北本線（花巻駅～盛岡駅間）

- ・主に「快速はまゆり」で使用している車両です。
- ・車両運用の都合により、他線区で運用することがあります。
- ・臨時列車などで他の線区を走行する場合があります。

(4) ラッピングイメージ

- ・ 1 両目 「森の道・赤い森」



- ・ 2 両目 「森の道・青い森」



3. 作家について

ヘラルポニーと契約している岩手県の作家の作品の中から、特に「岩手らしさ」、「東北の豊かな自然」をイメージできるアートとして、田崎飛鳥さんの「森の道・赤い森」「森の道・青い森」を採用しました。

<作家プロフィール> 田崎 飛鳥（たざき・あすか）さん

陸前高田市在住。彼は生まれながらにして、脳性麻痺と知的障害がある。幼いころから絵本や画集に興味を持ち、彫金作家である父、實さんの勧めで絵を描き始めるとその才能は伸びていき、アート展では賞を受賞するまでに。東日本大震災の津波により、自宅、今まで描いてきた約200点の絵、親しんできた豊かな自然とそこに住む人々…かけがえのない大切なものを一瞬で失い、あまりの衝撃と悲しみから、ショックで一度は筆を置いてしまったが、父からの言葉で、再び筆を取り壮絶な経験を経て今まで多くの観る人の心を動かす。



<作品紹介>

「森の道・赤い森」

道シリーズの作品で「森の中のまっすぐな小道が幸せにつながればいいな」という思いで描かれた作品。木々の色が書き出しのときは茶系だったものの、突如3本の木をピンクに変え、次に赤色二色で、最後に若草色の木に変化させました。

「森の道・青い森」

道シリーズの連作。「赤い森」と違い初めから迷いなく寒色系の色で木々を描き始めました。紫やライトブルーの木は実際に見えていない木ですが、彼の目には見えていたよう。斜めに走る小道を赤から金色に変化させることで、まるで森の奥に楽しい幸せな場所があるように感じられます

「森の道・赤い森」



「森の道・青い森」



4. 株式会社ヘラルボニーについて

ヘラルボニーは「異彩を、放て。」をミッションに掲げる、福祉実験ユニットです。国内外の主に知的な障害のある福祉施設、作家と契約を結び、2,000点を超える高解像度アートデータの著作権管理を軸とするライセンスビジネスをはじめ、作品をファッションやインテリアなどのプロダクトに落とし込む、アトライフスタイルブランド「HERALBONY」の運営や、建設現場の仮囲いに作品を転用する「全日本仮囲いアートミュージアム」など、福祉領域の拡張を見据えた多様な事業を展開しています。これらの社会実装を通じて「障害」のイメージ変容と、福祉を起点とした新たな文化の創造を目指します。

社名である「ヘラルボニー」は、知的障害のある両代表の兄・松田翔太が7歳の自由帳に記した謎の言葉です。「一見意味がないと思われるものを世の中に新しい価値として創出した」という意味を込めています。

(公式サイト：<https://www.heralbony.com/>、<https://www.heralbony.jp>)